

信州幼児教育振興指針について【概要】(平成31年3月策定)

長野県幼児教育あり方検討会

(1) 策定の背景と趣旨

① 幼児教育の重要性

- 子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を、幼児期(乳児を含む総称)から小・中学校、高等学校まで一貫して育成することが必要。

【国】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の同時改訂(H30.4施行)

☞全ての施設が「幼児教育を行う施設」として位置付く

【県】「生涯にわたる人格形成の基礎を築くとともに、急激な社会の変化に適応し、たくましく生き抜く力を育む幼児教育の充実を目指す」

② めざすところ

- 公私や園種を越え、県内全ての施設における質の高い幼児教育を実現

(2) 現状と課題

- ① 保育者には、遊びを中心とした保育の実践が求められる。
- ② 幼児教育アドバイザーの指導力の向上を図る必要がある。
- ③ 幼児期における遊びと小学校における学びの連続性を互いに考える必要がある。
- ④ 配慮の必要な子どもへの早期支援と共に育つ保育を実現する必要がある。
- ⑤ 家庭によっては、子どもを園に預けるのに精一杯な現状がある。
- ⑥ 園種を越えた質向上に係る取組の仕組みが不十分である。

(3) 基本理念

めざす子ども像	○ 笑顔かがやき、夢中になって遊ぶ子ども
めざす保育者像	○ 一人ひとりの生きる力を育むため、遊びや生活を子どもと共に創造し、子育てを支える人間性豊かな保育者
めざす家庭・地域像	○ 子どもと共に遊び、話し合い、協力し合える家庭と、それを見守り、支える地域

(4) 方針

- 【① 園外研修の充実】 職能に応じた専門性と長野県の地域特性に応じた保育の質の向上を目指し、研修機会の確保と充実
- 【② 園内研修の充実】 地域や園のもつ特性を生かすとともに、課題解決に向け、実践を通して具体的に学ぶ場として、園内研修を充実
- 【③ 園・小の接続・連携】 園で育んだ力が小学校での主体的な学びにつながるよう、園・小の現場を互いに理解し、学びの連続の実現に向けた連携を推進
- 【④ 配慮の必要な子どもへの支援】 様々な専門的な機関と連携を図りながら、子どもの特性に応じた支援を行いつつ、友達と共に育ち合う保育を実現
- 【⑤ 子育て支援・保育参加】 園と家庭、地域が一体となって日常的に保育にかかわり、子どものよさを地域で認め合い、子どもの自己肯定感が高まる保育を推進
- 【⑥ 市町村・関係団体・県の連携】 地域や園の特性を生かしながら、基本理念の実現に向けた連携を推進